

Title	情報化投資と企業業績
Sub Title	
Author	檜垣俊行(Higaki, Toshiyuki) 姉川, 知史
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2000
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2000年度経営学 第1631号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002000-1631

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	姉川 研究会	学籍番号	89928846	氏名	檜垣 俊行
(論文題名)					
情報化投資と企業業績					
(内容の要旨)					
<p>企業の設備投資額における情報化投資額の割合が大幅に増加している今日、情報化投資が企業業績に及ぼす過程を研究することの重要性はますます高まっている。しかしながら、こうした中で、情報化投資の効果測定に関する多くの研究がなされているにもかかわらず、その結果は渾然としており、議論が続いている。</p> <p>当研究では、以上のような問題に一つの結論を出すべく、情報化投資と企業業績間の関わりをモデル化し、有力米国企業と日本企業（小売、卸業、製造業）のデータを用いて実証研究を行った。モデル分析には、情報化投資額、情報化関連従業員数、企業業績、環境ダイナミズムなどの観測可能変数を用いた多変量解析と、情報化フィットという潜在変数を加えた共分散構造分析を用いた。</p> <p>研究の結果、情報化投資の企業業績に対する影響において、企業のコミットメントや環境が重要な役割を果たすことがわかった。また、日本と米国および過去と現在において、情報化投資が企業業績に与える影響の違い、特徴が明らかになった。</p>					